

特別講演概要

演 題 「鳥の渡りと地球環境の保全」

講 師 東京大学名誉教授、慶應義塾大学特任教授

樋口 広芳 氏

講演内容

渡り鳥は、いくつもの国にまたがって移動する。鳥たちは渡りの途中、何か所かの中継地で翼を休め、食物をとりエネルギーを補給していく。渡り鳥を保全するためには、繁殖地や越冬地だけでなく、「国際空港」としての中継地をも保全していく必要がある。そのためには、鳥がどこをどう渡り、どこが重要な生息地となっているのかを明らかにしなければならない。本講演では、人工衛星を利用した渡りの追跡例とそれによって進展した保全活動の事例を紹介する。

講師経歴

1948年横浜生まれ。東京大学大学院農学系研究科博士課程修了。農学博士。東京大学農学部助手、米国ミシガン大学（The University of Michigan, Ann Arbor）動物学博物館客員研究員、（財）日本野鳥の会・研究センター所長、東京大学大学院教授を経て、現在、東京大学名誉教授、慶應義塾大学特任教授。専門は鳥類学、生態学、保全生物学。日本鳥学会元会長、The Society for Conservation Biology Asian Section 元会長。主著「鳥の生態と進化」「赤い卵の謎」（思索社）、「鳥たちの生態学」（朝日新聞）、「飛べない鳥の謎」（平凡社）、「宇宙からツルを追う」（編著、読売新聞）、「保全生物学」（編著、東京大学出版会）、「カラス、どこが悪い!？」（共著、小学館）、「鳥たちの旅 - 渡り鳥の衛星追跡 -」（NHK出版）、「生命（いのち）にぎわう青い星 - 生物の多様性と私たちの暮らし -」（化学同人社）、「鳥・人・自然 - いのちのにぎわいを求めて -」（東京大学出版会）、The Journey of Birds-Satellite-tracking Bird Migration (SELC, Tokyo)、「日本の鳥の世界」（平凡社）など。1977年、日本鳥学会「鳥学研究賞」、1991年、国立公園協会「田村賞」、1998年、山階鳥類研究所「山階芳麿賞」受賞。